

# 復興を手助けする 民間の取組



## Fish Market 38°

漁業

漁業に根差した地域文化を守りたい

気仙沼市周辺には多くの小漁(こりょう:個人の小舟でする沿岸漁業)の漁師がいますが、市場まで漁獲物を運ぶ時間や交通手段がない、少量しか取れず市場に出しにくいなどの理由から漁獲物を現金化できないケースがあります。さらに、高齢化や震災で漁を辞めてしまう漁師も増加。漁師の生きがいや漁業に根差した地域文化を守りたいと、Fish Market 38°では漁獲物を出張で買い取る事業を開始。いつでも気軽に売る場を提供し、漁師が安心して漁を続けられる環境づくりを目指しています。また、仕入れた魚介類はいけすで保管するなど、新鮮な状態で飲食店などに提供しています。

## 石巻復興きずな新聞舎

地域新聞・支え合い

新聞での情報発信で、地域を元気に

2011年10月～2016年3月まで、ピースポート災害ボランティアセンターが石巻市内の仮設住宅向けに発行・配布してきた無料情報紙「仮設きずな新聞」の後継紙「石巻復興きずな新聞」(月1回/6,000部)を発行しています。①新聞による情報発信で、住民の自立を促進すること②新聞配布を通じた訪問・傾聴・見守り活動による心のケア、つながりをつくること③地元ボランティアの育成による地域支え合いの仕組みづくり、やりがいづくりをすること④県外ボランティアの受入れによる震災の風化防止を目的に活動しています。



## 松島流灯会 海の盆 実行委員会

コミュニティ活動

お盆本来の鎮魂の祭りを実施

松島の町に暮らし、この町が好きだという人たちが震災後の松島で立ち上げたのが「松島流灯会 海の盆」です。霊場としての松島、そして日本屈指の観光地としての松島。その両方を叶え、未来へとつないでいくような祭りにしようと、メンバーは奔走しています。松島海岸中央広場を中心に、盆踊りや屋台、供養花火といった、昔ながらの祭りのハイライトは、灯籠流しです。松島湾が、人々の想いを乗せた灯りに包まれ、お盆本来の「鎮魂」を核とする情緒ある営みが行われています。

写真提供:(一社)松島観光協会



東日本大震災以降、被災地復興のため、そして被災者支援のために立ち上がった人たちがいます。彼らが目指すのは、継続可能な活動を通して、明るい未来をつくっていく礎となること。そんな取組を紹介します。



## GAMA ROCK FES

音楽フェス

音楽、アート、食で塩竈を継続的に応援

東日本大震災直後から、塩竈市出身の写真家平間至とDragon AshのATSUSHIは、塩竈市を拠点に支援活動を続けてきました。震災から約1ヶ月後、沿岸にあったホームセンター駐車場でライブと炊き出しを行い、先が見えない不安な状況の中、生の声や生の楽器を通して、被災地の人々を勇気づけました。その2人が、さらなる継続的な活動を目指し、開催されることになったのが「GAMA ROCK FES」です。塩竈の音楽、アート、食の3つが柱となるイベントとして2012年にスタートし、以降2018年まで毎年行われています。

## FMあおぞら

コミュニティFM

2018年に開局した、新たなコミュニティFM

2016年まで亘理町臨時災害放送として放送してきた「FMあおぞら」を引き継ぐ形で、町内外から株主を募り、2018年11月に開局しました。「FMあおぞら」の元スタッフが設立した株式会社「エフエムわたり」が運営を担い、亘理町における地域情報発信による元気なまちづくり、亘理町限定の防災・災害時情報の発信による安心安全なまちづくりを目指しています。今後は、イベント会場からのレポートや、町内で活動するサークル、団体、人物の紹介なども行う予定です。



## カフェ地球村

カフェ

地域住民が集える場所に!

社会福祉法人「山元町社会福祉協議会」が運営する「工房地球村」は、病気や障害などのために就労が難しい人たちのサポートなどを行っています。震災によって施設利用者が行っていた仕事が無くなってしまったことを受け、寄付金をもとにトレーラーハウスを購入、そうしてオープンしたのが「カフェ地球村」です。施設利用者とスタッフで提供するメニューや制服も考え、今では、地域住民はもちろん、県内外からもお客さんが来ます。今後はカフェだけでなく、地域住民が気軽に利用できる場づくりもしていく予定です。

